

変化と成長

滋賀県

山田道場

中学2年

長谷川 美 緒

「変わる」それは周りの環境による変化。

「変える」それは自らの意思による変化。

私は二つの変化と、その先の成長について述べようと思う。

二〇二〇年、私の周りで沢山のことが変わった。私は中学生になり、不安を抱きながらも新しい生活に胸を弾ませていた。しかし、突然の新型コロナウイルスの到来。沢山の人が感染してしまい、亡くなる方も後をたたない。世界中が不安に見舞われ、混乱に陥ってしまった。状況は一変し、もちろん学校は休校、そして、剣道もできなくなった。突然の空白に私はどうしてよいか分からなくなった。

今まで当たり前のようにできていた剣道。それが当たり前ではなくなった瞬間だった。

「剣道ができてるのは当たり前のことではない。剣道ができることに感謝しよう。」

私の道場の先生は、いつも私達にそう言って下さっていた。私はその言葉の意味を、身をもって分かった気がした。この状況下で私が心配だったことは、やはり剣道の技術が衰えてしまうことだった。家での努力にも限界があった。稽古が出来なければ、もちろんパフォーマンスは落ちてしまう。いつ何が起るか分からない状況で、稽古ができないもどかしさを感じていた。私はそんな思いを抱えながらマイナスな気持ちになっていた。しかし、ずっとそんな気持ちではいられない。（世界中がコロナ禍に変わってしまった。ならば、それを受け入れて自分が変わるしかない。）私は前向きに考えた。稽古ができないのなら、稽古以外にやれることをやればよい。剣道の動画を見て研究したり、剣道の雑誌を読んで沢山の剣道家の思いを知った。これらは普段あまりしないことであった。コロナ禍で状況が変わったからこそ、やってみることができた。もちろん、これらは後々プラスに働いてきた。

やがて、緊急事態宣言が解除された。遂に私が中学校生活で一番楽しみにしていた部活が始まった。初めての環境、初めてのメンバー。新鮮な景色は今までの不安をかき消すようだった。

まず、仲間や先輩、先生の存在は大きい。私と同じく、剣道経験のある友達とは切磋琢磨している。中学生から剣道を始めた友達には、できるだけ沢山のことを教えたいと思っている。先生や先輩方には、様々なことを教えて頂いている。初めて会う沢山の人と剣道で関わり、私の世界は大きく広がったように感じられた。部活では、慣れない練習も多く、初めは分からないことだらけだった。しかし、その一つ一つをできるようにして自分に身に付けていくと、自分の剣道の幅が広がり、また一歩前に進めた感覚になった。また、先生や仲間は、私が気付かなかった視点で指摘してくれることもあった。そのような時はとても驚いてしまう。しかも、そういった癖はなかなか直らない。実際に私は、知らない間に竹刀の持ち方が悪くなっていることに気付かされた。そこで私は、数年間使っていた小判型の竹刀を丸型の竹刀に変えた。正直、変えることは迷ったが、癖を直すために思い切った決断をした。結局それが成功し、今は綺麗に竹刀を握れている。これらはほんの一例にすぎないが、身の回りの変化がもたらした影響は本当に大きかった。そこで臨機応変に対応し、自分自身も変えてみることで、また新しい景色が見えてくる。

「変える」ことは、良くも悪くも今までの安定が壊れてしまう気がする。しかしそうではない。

「変える」ことによって、過去のことを糧に、新しい、成長した自分になることができるのだ。

時代はコロナ禍。私は中学二年生になった。これからどのような出来事が起こるのだろうか。世界は、私達を取り巻く環境は、どのように変わっていくのだろうか。たとえどんなことがあろうと、私は前を向いて努力し続ける。勇気を出して変えたその先に、自分の成長があると信じて。